

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年3月23日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100178		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	水海道ケアセンターそよ風	ユニット名	さくら
所在地	〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町1785-1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	まだありません
------	---------

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成22年3月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームの特性を活かし少人数ならではの、個々のニーズに合わせた生活の支援を行っています。 又、地域の一人として住み続けられるように、地域行事に積極的に参加しています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は理念と毎年度新たに作成するスローガンを基に、利用者一人ひとりに心を寄せ合い、これまで利用者が地域で過ごしてきたように支援していく心構えを持ち、利用後の状態がより良くなることを願って支援している。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの笑顔を大切に、互いに支えあい共に生活します」との北海道そよ風独自の理念がある。理念は、職員が目につく場所に掲示し、その理念のなかの「互いに支え合い」という言葉は職員、家族、地域であることを理解し、実践している。	「一人ひとりの笑顔を大切に互いに支え合い共に生活します」という独自の理念を作成し、朝礼時に唱和したり、利用者一人ひとり笑顔が出るようにするにはどうすれば良いのかを全体会議などで確認するとともに、全職員で共有し実践に努めている。 理念の「互いに支え合い」とは、職員や家族等、地域が互いに支え合うことを意味している。	より地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を作成されることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、市の一斉清掃に参加し、町内の人々との交流を図っている。又、7月の祇園祭、新年には町内会の演芸部による獅子舞の披露などをゆっくり見物することが出来、懐かしさに涙する方もいる。	自治会に加入し市や自治会の行事の情報を得て清掃活動に利用者と職員が参加したり、地域の祇園祭や新年の獅子舞などの催しに参加するとともに、事業所主催の納涼祭で地域住民とふれ合い交流をしている。 買い物に出かけた日用品店でお茶をいただいたり、近くの農園に花を買いに出かけるなどで地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に参加しており、市の一斉清掃に職員と利用者で参加している。利用者の作業には無理がないよう近所の方が配慮してくれる。その他には、高齢者に役立つことはないか運営推進会議にて提案し民生委員の方から、一人暮らしの高齢者の情報をもらい困った時はいつでも相談を受けられる体制があることを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に家族会において運営推進会議についての意義を説明し、理解を求め、家族会の中での意見が運営推進会議で活かされ更にサービス向上に活かしている。評価への取り組みも同様である。	運営推進会議は市職員や利用者、家族等の代表、地域住民の代表、必要があるときは消防署員も加わって2ヶ月に1回開催するとともに、会議録を家族等に送付し報告している。 会議では利用者の状況や行事報告、感染症対策などを議題とし、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議で多くの委員の出席が得られるよう工夫するとともに災害対策など諸課題を話し合い、会議の充実を図ることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム管理者は市町村担当者と運営推進会議以外でも、行き来があり、ホーム側から相談する事柄があった場合、気軽に相談出来る関係がある。	市担当者に介護保険に関して確認や相談をしたり、事業所の状況などを伝えながら、円滑な協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入社員が入って来た際には、必ず身体拘束に関してのホームの指針を指導し、全職員が身体拘束を行わない介護を実践している。又1年に1回は研修や勉強会を行っている。	毎月の全体会議や年間の研修計画に組み入れ、禁止の対象となる具体的な身体拘束の行為を職員は勉強し、正しく理解している。 新入職員には正しい認識を持ってもらえるよう身体拘束ゼロへの手引などで管理者が教示している。 身体拘束のない介護のための指針のポスターを職員の目に付き易い場所に掲示し、全職員が拘束のない介護を意識できるよう取り組んでいる。 事業所は2階に位置しているため昼間は玄関を施錠していないが、2階の階段口は危険防止から家族等の承諾を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会等で学んだ他、高齢者虐待マニュアルを回覧し、マニュアルを手本に全職員で理解を深められるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用者の中に地域権利擁護事業を利用している方がおり、学ぶ機会があった。今後も、必要な人には活用できるように支援をしていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は必ず事前に自宅に向き、本人・家族とじっくり話をしている。解約をする際は、十分な説明をし同意を得ている。長期入院によりホームに戻れない場合は主治医を含めた担当者会議の場において理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置の他、無記名アンケートの実施をした。・契約書に苦情相談窓口として連絡先を明記。家族会において意見を求めることは勿論だが、普段、家族が来所した際に職員から話し掛け、要望が聞き出せるよう関係作りをすることを心がけている。	意見箱を設置するとともに、家族会開催時や家族等の訪問時に意見や要望等を聴き、意向の把握に努めるほか無記名の家族アンケートを実施し、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は県内9カ所の事業所で、毎月1回の支社会議に参加し、職員の意見をその会議において問題提示し反映させている。またグループホーム管理者会議が新たに発足し、更に現場の状況について意見交換し運営に反映させている。	管理者は職員から出た意見等を同一法人の茨城ブロック会議で事例として問題提起をしたり、事業所の全体会議や朝夕の申し送り時に出た職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター管理者は年に2回人事考課を実施し職員個々の努力や実績を評価し、それを会社に書面で報告し昇格、昇給がされる仕組みがあり、職員の意欲向上に繋がっている。又、有給に関しても取りやすい環境にある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内が届いた際には、職員個々の能力を見極めた上で社内外の研修に参加を進めている。又、必要な内容の研修には出勤扱いとして認め勤務上でも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	昨年、市グループホーム協議会が発足し同業者と交流する機会ができた。それぞれのホームがサービスの質の向上に努力している。協議会は各ホームで開催することもあり相互訪問が実践された。又、市は必要なことがあれば協力してくれる体制がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の情報を得ることは勿論行っているが、入居してから解る事柄も多い為、特に、管理者や計画作成担当者は普段のさりげない会話の中にも援助する上で重要なことを見極め、本人の要望や不安な事柄を見つけ出すことに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに本人や家族から、特に生活歴については、詳しく情報提供をしてもらい本人の生活に活かせるヒントを頂き、職員間で情報の共有をしている。センター管理者は家族が面会を終え帰る際に、玄関に出て見送りするようにし、要望が伝えやすいような雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談業務を行っている職員が、開設当初からの職員で初期対応で必要としている支援を見極める力があり身体状況の著しい変化や、家族の希望なども含めた対応を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に、利用者本意に行動しており、衣・食・住・遊を共にしているため本人から学ぶ事も多く、その際には必ず感謝の言葉をつたえている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際には、積極的に利用者の状況を伝え、一緒に本人を支えていく関係作りをしている。最近の状況を伝えることで、家族が本人に電話をくれたり、すぐに会いに来てくれたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に面会できる環境作りをし、プライバシーに配慮し、尋ねて来た方がゆっくり話ができるように支援している。お帰りの際には、必ず「また来てくださいね」と言葉を添えている。	殆どの利用者が地元住民であり顔馴染みの訪問が多く、事業所ではプライバシーに配慮しゆっくり話ができる場所を提供している。 利用者によっては馴染みの美容院まで職員が送り、帰りは美容院の方に送ってもらうなど、地域の人々の協力を得ながら関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを尊重しながら、利用者同士の会話等のきっかけ作りを職員が間に入り支援、実施し、多くの利用者に関われるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となりホームに戻れなくなった場合でも、そよ風に戻りたいとの希望が多いため、本人の容態が安定したらいつでも相談を受けられる体制を整えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、本人の希望、意向等を引き出せるように職員は常に利用者に寄り添い必要な援助をしている。そして、自己決定や選択が出来るよう本人のペースに合わせて接している。	お茶の時間に「何が飲みたいですか」と訊ね利用者の思いを大切にするなど、職員は利用者が選択や自己決定ができ易いよう支援している。 思いや意向の把握が困難な場合は、表情や動きの様子で利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの、生活歴を知ることによって一人ひとりが暮らしの中で力を発揮できるように、園芸用品、裁縫道具、清掃用品（和ぼうき）、趣味の品等を取り揃え、場面に応じ活躍していただいている。ホーム玄関の掃除、花壇の手入れ等は毎日の朝の日課になっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やケース記録に入居者個々の特徴や変化を記録し、職員間で情報を共有し入居者一人ひとりが本人のペースで生活出来るように努めている。食後休みたい方、入浴後休みたい方、趣味活動をされる方等、個々に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人から事前に情報を聞くことは勿論のこと、更に、職員個々の「気づき」を大切にしそれを聞き逃さずに情報共有し、課題を明らかにしている。定期的なカンファレンスの他、一人ひとりのその時の状態に即した介護計画を作成している。	契約時に診療状況や身体状況などの基本情報を把握するとともに、カンファレンスで家族等と話し合い現状に即した介護計画を作成している。 3ヶ月ごとにモニタリングを行い支援経過記録を参考に見直すほか、心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の表情、身体の変化などを口頭で申し送りをする他、個人記録への記入を行っている。この記録を通じ職員間で話し合い、情報を共有しケアの実践や介護計画のモニタリングに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な病院受診以外に他科での受診が必要な場合、家族に負担が係らぬようホーム側で随時対応している。その他、理美容サービスに関しても利用者が入居前に利用していた所に行ける支援をしている。更に、携帯電話の使用もして頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入会していることで町のイベントの情報が詳しく解り、特に、7月の祇園祭、新年の獅子舞等の大きなイベント時には、来所前に時間の連絡を下さり、毎年の恒例行事を町内の方と一緒に楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重視した上で決定し、利用者によっては2ヶ所を受診している方もいる。その際、ホーム側としては2ヶ所の病院の関係がうまくいくような配慮をし、入院が必要になった場合主治医から情報提供してもらい、退院時には、主治医に診療情報提供書を頂く仕組みになっている。	協力医療機関の受診を希望している利用者は、毎月2回往診がある。 利用前からのかかりつけ医を希望する利用者は、継続して受診ができるよう支援している。 利用者によっては協力医療機関と利用前からのかかりつけ医の2ヶ所を受診しているが、その場合は双方の機関に診療状況を伝え、検査や薬が重複しないよう配慮している。 受診結果は家族等へ報告するとともに、支援経過記録に記入している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診可能な協力医療機関が月2回診察する他、利用者の様態に変化が表れた際は、医師に直接連絡する体制が整っている。又、グループの看護師や併設の通所事業の看護師にも相談できる体制があり急変時には対応してもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、毎日面会に行くことで、利用者の精神面での支えになるよう支援している。その際、ソーシャルワーカーにも会い状態を聞くことで、信頼関係ができており、ケースによっては医師も含めた担当者会議を行い情報交換がされ、早期退院できるための連携が図られている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居相談時に終身ではない旨の説明をし、理解を得た上で入居して頂いている。重度化した場合に関しては、全介助になったとしてもその時点で、本人の状況によってはホームでの生活をしていただいている。利用者の状態は常に主治医に相談し、家族にも主治医から直接報告され、ホーム側はそれを把握し記録にも残している。</p>	<p>看取りは行わない方針であることを契約時に家族等に説明し承諾を得ているが、家族等の同意があれば主治医の意見を基に看取りを行うことも可能である。重度化や終末期の対応マニュアルを作成し職員は共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は普通救命講習及び、AEDを使用した救命講習を受講し、応急手当や初期対応が出来るようにしている。またグループの看護師や、通所の看護師が急変時には対応してくれる体制にある。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者が中心となり昼間・夜間を想定とした避難訓練を行っている。地域の方々には運営推進会議時に町内会の会長さんや民生委員さんに協力が得られるように働きかけを行なってもらっている。又、備蓄品の確保をしている。</p>	<p>消防署立会いのもと4月に昼間を想定した避難訓練、10月に夜間を想定した避難訓練を役割分担を決め全職員で実施している。 ユニット毎に缶詰等の食糧や飲料水を備蓄している。 災害時に協力が得られるよう運営推進会議で町内会長や民生委員に働きかけているが、避難訓練時に地域住民の協力を得るまでには至っていない。</p>	<p>災害に備え地域との協力体制を築くため、継続して消防団や町内会長、民生委員、地域住民を交えた災害対策への取り組みが望まれる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけ・対応をし、特にトイレの誘導の言葉かけには個々の対応があり（耳元で小声での対応、他者に気付かれないよう手招きする等）、入浴に関しても入居者間での順番の取り決めがあり、プライバシーに配慮し行なっている。	職員は利用者一人ひとりの性格を把握し、トイレや風呂などの誘導はプライバシーを損ねない言葉かけに配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	障害により言葉で思いを伝えられない方、コミュニケーションをとるのが難しい方、自分の思いを伝えられる方等、様々な状況の中、一人ひとりの思いがキャッチできるように表情や態度などを観察しながら自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者や家族の希望を聞き入れながら一人ひとりの生活のペースに合わせて一日を送れるように支援している。特に入浴・外出などは利用者の希望に合わせたケアの提供に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活の場面や季節に適した服装が出来るよう支援している。理美容は定期的に訪問美容院を利用し本人の希望を聞き、行っている。又、行きつけの美容院希望の利用者には送迎の支援をしている。利用者の中には、1日に3、4回洋服を着替える方がいる。（入居前からしていた）		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けも彩りを良くし、見てよし、味わってよしと言われるように工夫している。食器はなじみの物を使い（自宅で使用していた飯碗、汁碗、箸、湯のみ等）月1度は出前や外食する機会を設け、好みの物を選んで召し上がっていただいている。又、食器拭き等、職員と一緒に会話しながら行っている。	法人で作成した献立に基づき、併設の通所介護事業所で一括して食事を作っている。 できる利用者は盛り付けや食器拭きなどを手伝うとともに、職員と一緒に食事をしている。 利用者の食器類は自宅で使用していた馴染みの物を使用している。 毎月の献立に全国の郷土料理を取り入れたり、出前や外食の機会を設け、利用者の好みのものが食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事量、食事形態、水分量を職員が把握し、特に、脱水がおきないようにお茶だけでなく好みの物がのめるようにコーヒー、紅茶、ココア、ポカリスエット等とり揃え対応している。更に、食欲がない場合にはその時食べたい物を提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをし、一人ひとりのもてる力を発揮してもらいながら口腔ケアを実施している。必要時には訪問歯科による治療を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、利用者によっては前誘導を行っている。トイレ誘導の言葉かけは自尊心を傷つけないように行っている。職員は日頃から統一した援助が出来るように、互いに確認している。	水分摂取チェック表と合わせた排泄チェック表を基に、職員は利用者のプライドを傷つけない配慮をしながら時間を見計らってトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れることと、毎日、身体を動かす工夫をし、自然排便を促す配慮をしている。利用者の中には訪問販売のヤクルトを購入し、毎日、便秘予防に飲む方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日本人に希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。しぶしぶ入浴されても、入ってしまうと湯船から出たがらずリラックスした様子が見られ、職員も介助しながら嬉しいひと時である。	入浴は毎日できるよう準備するとともに、利用者一人ひとりの希望を尊重し支援している。 基本的に一日おきには全員が入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者はタイミングを見計らい声をかけ、入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起こらないように利用者の状態に合わせた一人ひとりの生活リズムを把握し、疲れた様子が見られた場合、居室で休息できるよう支援している。不眠症で入居された方が1週間で夜間眠れるようになり、本人も家族も安心された。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬説を保管し、薬の目的や副作用を確認できるようにしている。又、何らかの心身上の変化がみられた場合には、その状況を家族や医師に伝え使用薬剤の見直しの相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意不得意の理解と、掃除、家事等を好まない方の把握をしているので、個々が得意な場面で活躍できる支援をし、自信を高めるような言葉かけや、働きかけをしている。又、希望があればひとりでも職員が付き添い買い物に行くこともある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出る際は、なるべく利用者連れだし、天気の良い日は1階ベンチにてお茶を楽しんでいる。お茶の最中に近所の方が気軽に声を掛けてくれる。又、利用者には、外出先を決定してもらいドライブにも出かけたり、家族との外出もしていただけるよう働きかけている。	利用者の買い物に職員が同行し、馴染みの店ではお茶を飲むことができる関係を築いている。 散歩時に自宅へ立ち寄ったり家族等と食事に出かけるなど、家族等の協力を得ながら外出支援をしている。 併設の通所介護事業所の車を使い、利用者の希望の場所へドライブに出かける支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望により数千円を財布に入れ、買い物の際はそこから支払っている。管理の難しい利用者に対しては、買い物の際、財布を持ってもらい支払する援助をしている。 1階に設置されている自販機で自ら小銭を入れ、飲みたい物を選んでもらう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話のとりつぎの他、甥や姪が電話をしてくることもあり、とりついでいる。その他、希望に応じて電話の利用を支援している。携帯電話にて自ら連絡される入居者もいる。手紙に関しては、家族参加の行事の案内を送付する際に、利用者から一言言葉を添え手紙として送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって居心地を良くするため、共用空間には花を飾ったり、季節感が味わえるような作品を作り、作品が完成すると皆で観賞し、達成感に満ち溢れた表情が見られる。どこに飾るかを決めるのも一苦労であるが、それもまた楽しみのひとつでもある。リビングは日照時間が長く明るい場所で、窓には障子があり光が直接入らない工夫がされている。又、利用者自らが使用しない場所の電気を消すなどしてくれる。	廊下や居間、食堂などの共用空間には書道や俳句、折り紙、塗り絵など利用者の作品や花が飾られ、居心地良く生活ができるよう配慮している。 直射日光が避けられるよう障子で陽射しの調節をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

t	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースをうまく使い共有の空間でもそれぞれの居場所が確保できており、個々が使用している椅子には背中にもクッションが置かれ、のんびりできる工夫がされている。利用者同士で趣味活動をして過ごす方もいる。独りになりたい時や、部屋で休みたい時は自ら休息している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅にいた状態に近い生活空間を再現し、馴染みの物を持ち込んで頂き、家具の配置には工夫をしている。食器・布団・椅子等、使い慣れた物を使用している。利用者によっては家族の写真を飾っている。	備え付けのベッドに馴染めない利用者は、マットレスや布団、椅子など馴染みの物を持ち込むとともに家族等の写真などを飾り、自宅と同じように暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。入居者の生活歴を知り、出来ること、出来ないことを見極めて、見守りを第一に考え残存機能が維持できるように個別援助を実践している。そして、一人ひとりが活躍出来る場面をつくり、その人らしい生活が継続できるような支援を心がけている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 水海道ケアセンターそよ風

作成日 平成22年3月19日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民を交えた災害対策の取り組み	地域住民との交流	・運営推進会議において、再度議題とする予定 ・家族会で、避難訓練の実施	2ヶ月
2	4	運営推進会議の充実	広く地域住民の意見を求める運営推進会議	多くの委員に出席して頂けるよう老人会に依頼する。	3ヶ月
3	1	理念の共有	より地域に根ざしたそよ風造り	グループホーム会議において職員全員で話し合う予定	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。